

大好きなビオトープとカワバタモロコ

中田 怜寿・上野 理
(宝塚市立逆瀬台小学校 ビオトープ委員会 6年)

はじめに

私たちの学校は六甲山系の西のはしっここの行者山のしゃ面にあります。標高は220メートルで、とてもながめがよくて大阪や大阪湾がよく見えます。山の中なのでリスやテンなどを見かけることがあります。野鳥もたくさんいて、タカもよく見かけます。

体育館の南側に、私たちの自まんのビオトープがあります。この池はみんなの大好きな場所です。水の中に入ってメダカやヤゴをつかまえられるからです。メダカは水辺に集まるので手ですくうのがおもしろいです。去年はモリアオガルがタマゴを産みつけました。夏にはトンボやバツをつかまえます。トンボはシオカラ、モノサシトンボ、ヤンマが多いです。今年は2、3年見かけなかったショウジョウトンボが姿を見せました。夏の終わりにはミヤマアカネが多くなります。冬は池が毎日こおるので、氷を割って遊びます。

カワバタモロコを守れ

池の中にはメダカのほかにモツゴやカワバタモロコがいます。カワバタモロコは2011年の5月にキリンビオトープからゆずってもらいました。絶滅が心配されているカワバタモロコをふやすことも私たちビオトープ委員会の目標です。ビオトープ委員会は月に一回、全校生によびかけてビオトープのそうじをします。それから、春と秋に池の中の生き物を調べます。2011年の秋の調査でカワバタモロコの赤ちゃんは見つかりましたが、少なかったです。人と自然の博物館の田中先生が「モツゴが多すぎるのではないか。」とおっしゃったので、翌年はモツゴをへらしてみることになりました。

2012年 モツゴ引越し作戦 - モツゴがカワバタモロコを食べている!! -

2012年の5月の調査では、3つのトラップにモツゴ140匹、カワバタモロコ46匹、カワムツ2匹。トラップをしかけたのは1度だけだったので、池の中にはその何倍もの魚たちがいると思います。カワバタモロコがふえているようで安心しました。

つかまえたモツゴは、ほしい人にあげることにしてペットボトルを持ってきてもらいました。配る日には、いっぱいの人が集まって大変でした。家で飼えなくなったら必ず学校に返すようにと書いた手紙を渡しました。秋の調査は失敗しました。調査の時期が遅れて水温が10度だったので寒くて魚たちの活動が止まっていたのです。トラップのエサを食べに来なかったのです。

2013年春・・・気になるウシガエル - ウシガエルほかく作戦 -

モツゴの他にビオトープには気になる生き物がいます。ウシガエルです。澤田先生が、アカガエルやヒキガエルがいなくなってウシガエルが増えていると言われていたからです。何でも食べるからタマゴも食べられていないかなあ。と心配です。そこで1学期はウシガエルをつかまえることにしました。一人で4匹つかまえた人もいて、ウシガエルはずいぶんへりました。

2013年 秋の調査 - メダカは水面に。カワバタとモツゴは底にせい息している!! -

10月24日にトラップを3個しずめて1時間後に引き上げました。結果モツゴ65ひき、メダカ115ひき、カワバタモロコ29ひきでした。カワバタモロコが減っていました。僕たちが注目したのは、カワバタモロコの入っていたトラップは池の一番深いところにしかけた一つだけです。同じトラップにはモツゴがたくさん入っていました。つまり、カワバタモロコは池の底で活動していて、モツゴも同じところにいるのです。カワバタモロコのタマゴや赤ちゃんがモツゴに食べられている!!可能性が高いです。また、モツゴをみんなに配ることにしました。そして、これからもモツゴひっこし作戦を続けます。